

批評理論とライティング教育の関係

畑山 浩昭

アメリカの大学では必ずと言っていいほど、新入生のためのライティングの授業がある。一般的にはイングリッシュデパートメントが全学的に提供する「ENGLISH 101」等の名称で行われるが、現在は初年次教育が多様化しており、大学全体のプログラムとして複数のデパートメントの教員が関わっている場合もある。いずれにしても「書くこと」は、大学生として最初に修得すべき特別な技能として取り扱われる。学生達は、講義を聴いたり、本を読んだり、クラスメートと議論したりしながら知識を増やしていくが、最終的にはレポートや論文を書くことによって、自分の思考を形にしなければならない。だからこそライティングが最重要視されるのである。

アメリカの大学教育でライティングが大事にされることは日本でもよく知られている。しかしライティングの授業方針が、その時代の有力な批評理論の考え方に大きく影響されることはあまり知られていない。ライティングの授業は、伝統的には英語英文学科の先導によって実施されてきた。読み書きのデパートメントである英語英文学科に、大学が委嘱してきたということである。英語英文学の世界では、ライティングによって形になる「テキスト」の表現や解釈に関する批評が、あらゆる教育研究活動の基本である。書くことはテキストを産出することなので、学生にライティングを教えるにあたり、テキストの批評理論を基本的な考え方として意識せざるを得ないことになる。結果として、有力な批評理論に基づいたライティング授業になるのである。

もちろん、ライティング技術の基礎事項はあまり変わることはない。文の種類や段落の作り方、典型的な議論の構成、伝統的な修辞法などは、いつの時代でもきちんと教えられてきた。しかし、これらは大学に入学する前に学んでおくべき事項としての認識が強い。大学におけるライティング教育に影響を与える批評理論とは、いわゆる「クリティシズム」のことであり、書かれたテキストと他の物事との関係をより正確に把握しようとする学術的な営みである。つまり、現実世界についての認識、作者の思考、作者の表現形式、読者の解釈、言語の構造や機能、などとの関係において、テキストをどのように捉えるべきかという考察である。

批評史の中で、構造主義が全盛だった頃までは、テキスト内の統一性に重きが置かれ、文章の構成や論理的な展開が重要とされていたが、その統一性にフィットできないものの中にこそ大事な問題が隠れているとするポスト構造主義が叫ばれてからは、テキストの捉え方が大きく変わった。さらに、ディコンストラクションに至っては、何かについ

て表現した瞬間に、表現されていない反対の視点や立場について批判的に考えることを余儀なくされるようになったし、リーダーリスポンスでは、読者の解釈にこそ意味が発生するのであって、テキストそのものは、読まれなければ価値はないとする見解が議論された。ポストコロニアルやニューヒストリシズム、フェミニズム等を中心とする、テキスト以外の情報をテキストとして読み解いていく新しい方法においては、書かれたテキストだけでは意味の確定は難しいことが、繰り返し強調されてきている。

「テキスト」を、ライティングの授業でも学生達が産出するので、上記のようなクリティシズムの変遷を熟知している現代の教員達は、「学生が書いた文章の誤りを正す」という意味においての「添削」ができなくなっている。文法的な間違いやジャンル上の決まり事としてのスタイルについては指摘できるものの、それ以外については読者としての「レスポンス」や「コメント」を書くにとどめることが好まれるのである。というのも、上述したクリティシズムの変遷によって、言語は頼りないコミュニケーション媒体として位置づけられたし、テキストは、それとして明確な正しい意味を持ち得ないし、読者自身の知識や経験、文化背景等によって様々な解釈が可能となることから、テキストが伝えるべき「意味」の確定がかなり難しく、複雑になっているのである。たとえ、ライティングの専門教員であっても、批評理論上は、学生が書いたテキストの意味の確定ができないことになるので、良いも悪いも正しいも誤りも、原則的には言えないのである。実際のライティングの授業では、様々な課題が出されるものの、このような理由で、課題の評価は非常に難しい。

言語教育におけるこれからの「書くことの教育」は、書き方の教育ではなく、「書いたもの、書かれたものについて、お互いに読み、話し合いながら、テキストの意味を追求する実践を続けること」が非常に重要であると思われる。その話し合いの中から、作者、読者の視点や認識、思考や文化的背景が見えてくると同時に、「書くこと」や「テキスト」の本質や機能、限界が、話し合いに参加している当事者同士で理解、共有できるからである。それこそが、次にテキストを制作する時の新たな指針となり、より良いライティングにつながるのである。